

令和元年度 第2回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和元年度 第2回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和2年1月22日(水) 18時00分～20時00分
場所	宇治市役所 6階 602会議室
出席者	<p>(委員) 榑原会長 青木委員 雪浦委員 井戸本委員 内田委員 原田委員 瀬野委員 山田委員</p> <p>(事務局) 岸本教育長 伊賀教育部長 上道教育副部長 市橋教育支援センター長 栗田教育総務課長 三村学校管理課長 久泉生涯学習課長 吉田学校教育課長 渡邊学校教育課副課長 石田学校教育課総括指導主事 石田学校教育課学校教育指導主事</p> <p>* 薮副会長は欠席</p>
配付資料	<p>○平成31(令和元)年度宇治市小中一貫教育についてのアンケート報告書</p> <p>○平成31(令和元)年度宇治市小中一貫教育についてのアンケート報告書(概要版)</p> <p>○西小倉地域の小・中学校のあり方に関わる要望書 他</p>
<p>1 開会</p> <p>・岸本教育長 開会挨拶</p> <p>2 報告及び協議事項</p> <p>(1) 報告 「平成31(令和元)年度宇治市小中一貫教育についてのアンケート」の結果報告</p> <p>・「アンケート報告書・概要版」に沿って事務局より説明</p> <p>(会長)</p> <p>事務局より報告がありましたが、確認しておきたい事がございましたら、発言をお願いします。</p> <p>(委員)</p> <p>分離型と一体型の差で、顕著に出ている所がよくわかります。小学校の時に不安だった悩みが小さくなったり無くなったりして、友達関係の悩みについては分離型の方が40パーセント近く不安があるのに一体型は10数パーセント、これは大分差があるなと思います。一体型だと人間関係が引き継がれるので、なかなか変わらない所もあるのかなと思います。</p> <p>(委員)</p> <p>分離型と一体型において、勉強と定期テストの悩みは一体型の方が不安があるようです。</p> <p>(委員)</p> <p>おそらく、小中が一緒になっている所で、連続しているのでギャップが無いというのがありますが、他の学校とのギャップに悩んだり、不安に思ったりするのではないかな。小中で成績が上がっているつもりでも、実はその中にいるとその環境がわからなくなり、本当にその計数が実態に添ったものか、広く見ると本当に良いのか悪いのかという所に不安を抱えます。このアンケート結果から見ると感じます。</p> <p>(会長)</p> <p>各校の中学生と自分を比べて、ギャップがあるかどうか・・・。</p> <p>(委員)</p> <p>本校では、9年間を前期・中期・後期と区切り、1年生から4年生までが前期、5年生から7年生</p>	

が中期、8・9年生を後期とし、集会などは5・6・7年生で行うことがあります（つまり小学生と中学生が混合）。始業式や終業式など、普通だったら中学生の中に小学生は入らないが、入れておきますので、私（校長）からの話にしても、受験の前になってくると受験の話もしますし、定期テストや将来の話、そういったものも照準を5・6年生に合わせるのではなく、その中間地点に合わせて話をします。また日常生活においても、同じフロアにいる5年・6年については、今日はテストの日だとかテスト一週間位に試験範囲が廊下に貼り出されるとか、色々と目につきますので、そういうことを全く知らない5・6年生と本校を比較するのは、表れ方として確かに数字のマジックの気がします。（委員）

また、私の個人的な考えかもしれませんが、中1ギャップは必ずあります。ゼロにはならないです。10年前は、中1ギャップの解消、不登校の解消を小中一貫教育の必要性とした面目で進んだと思いますが、実は、そういう思い、こういう言い方ではなく、中1ギャップの幅を狭める、割合を減らす、ギャップの硬さを減らす、それがこの施設一体型の小中一貫の狙いであって、50%だ25%だとか25の数字が高いのではなく、半減している事は非常に効果があり、それだけギャップの幅が狭まったと考えます。無くなるはずはないですから。中学へ上がった時の不安は無くなりました、「ゼロ」は絶対ありませんが、幅を減らすという意味では、大変効果があったのではないかと思います。今は文科省も中1ギャップという言い方はあまりしなくて、中2問題の話をよくします。10年経って、使い分けしなければならないという事ですね。

（会長）

1点目の事で、事務局から何か受け止めや補足などありますか。つまり一体型の方が6年生時点では不安が大きいという解釈について、何か協議されたことはありますか。

（事務局）

中1ギャップについては無くなる事はないと言う回答をしており、実際に幅が狭くなったという事は、当初から目指している軽減、中1ギャップ解消ではなく、軽減という意味でその方向に向かっているのではないかと思います。

（会長）

それは後半の事ですね。前半の一体型と分離型の生徒の受け止め、一体型の方が高いというのはどう考えたらいいのか、解釈しますか。

（委員）

数字のマジックかと思えます。中学校での不安や悩みについて、小学校6年生の下段のデータでは、分離型・一体型ともに不安や悩みがあり、分離型は半分以上で、一体型は4分の1いう中、トータルでいうと、やはり一体型の方が6年生からすると中学校に上がる時のギャップがないというか段差が少ない。母数が少ない中で実際を見ていくと、確かに一体型は何々が大きいなどあるけれど、総数で言うと当然不安を持っている事が少ないと言えるので、そこについてはグラフ上一定の評価となります。

（事務局）

不安や悩みにつきましては、複数回答しておりますので、不安や悩みがあると答えた人が、どれが解消したのかという中で3つまで回答しております。一体型は、そもそも不安があると答えた人数が少なくなっていて、大きく差が出るということは解消しています。

（会長）

「勉強」から「その他」までを全部足して平均化すると左の円グラフになるという理解でいいですか。

（事務局）

不安や悩みがあると答えた人が、ある項目を全ての人が回答すると100%になります。例えば、一体型で100人にアンケートをしました。その内25人が不安があると答えた。その25人が全員「勉強」の項目を選んだら100%になります。実際は、63%でした。

（会長）

ちょっと、示し方に問題がありますね。一体型と分離型の棒グラフを並べたら駄目で、57と63でどっちが高い、低いと比べるのは意味がないという事です。大きくは円グラフを見てください。

(委員)

よく理解していなかったもので、今、説明して頂き理解は出来ましたが、円グラフを見て感覚的ですが、やはり一体型だと小学生からは身近に7年生、8年生、9年生という中学生がいて、ある程度の情報を自分が目にする所にあつて、必然的に一体型の方が情報を手に入れる環境があつたりするので、不安の材料が少ないのではないかなと思います。小学校から中学校に上がる時に、知らない中学校に行かなければならないと、勉強や友達関係などどんなのかな、こんなのかなと率直に不安が出るのだなと思います。それともう1つ小中一貫の事で、1年生から9年生まで子どもがいるのですが、6年生から7年生になる時に中1ギャップを無くすための連携をとっているのですね。

(委員)

取組を計画したり交流したりするときは、自然に、馴染んでいくようにと考えて、ギャップを減らそうとしています。勿論、自然な形で異学年交流が出来る校舎の造りもあつたりしますが。

(会長)

では、アンケートの見方や取り方については、今後考えていただくとして、今回は報告頂いたという事でよろしいか。

(委員)

最後に一言。事務局からの説明にあるように確かに経年比較では、この3~4年間は殆んど変わっていない状況にありますが、データを見る限り、この間それぞれの学校が取組を工夫していることから、それなりの認知をして頂いているという事の結果ではないかと思います。アンケート内容については、去年もここで議論しましたが、内容的にかなりのボリュームで、その結果に変化が無いということは2つ考えられると思います。1つは、小中一貫教育の取組自体をちょっと精査するという事。もう1つは、アンケート自体は大事であっても、果たして毎年する必要があるのかという事について精査する事。ただ、この後の議題で出てくる西小倉地域の在り方にかかわる整合性もが出てくるかもしれないので何とも言えないですが、内容や項目等の検討に加え、実施する頻度を3年に1回にするなど、事務局は検討されたいと思います。学校現場でアンケートを取るのは結構労力があるので、様々な点で検討されたいかなと報告を受けて思いました。

(会長)

調査の経緯やデータの集め方などで施策に関わってくるので、預かりとして考えて頂けたらと思います。

(2) 説明報告 西小倉地域の小中一貫教育について
・ 配付資料に沿って事務局より説明

(会長)

輪郭をどう描いていけばいいかという所で、答えが難しいかもしれませんが、仮に要望書をベースにすると考えるならば、どんな話を進めていいのか、北小倉小学校の児童は分散進学になることを視野に入れるのかなど、どのような感じですか。それともまだわからないですか。

(事務局)

今現在、北小倉小学校の児童は全員北宇治中学校に進学することとなっております。地元の方がいう西小倉地域については、地図を見て頂けると、そこには北宇治中学校が載っておりません。地図では北宇治中学校は右の方の位置関係となっております。地域的に見ますと、近鉄の線路の西側にあり、地域コミュニティなどを含め、西小倉地域一体として活動されている観点があります。そういった所から、西小倉中学校と地域の方で北小倉小学校を一緒にしていったらどうかという事で、北小倉小学校の児童は全員西小倉中学校に進学するという考えを持っておられます。

(会長)

という想定で、意見を頂戴する前に今の説明で確認しておきたい所がありますか。

(委員)

この地域の事は詳しく無くて申し訳ないのですが、先程の地図で線路より東側に北宇治中学校があつて、今北小倉小学校に通われている児童の中には線路より東側に住んでいる方もおられますか。

(事務局)

基本的には線路から東は別の小学校になっておりますので、線路から西側が北小倉小学校通学路になっています。

(委員)

私は、南小倉学校区で青少協に入っているのですが、この要望書にあります西小倉コミュニティ推進協議会には入っておりませんので、検討委員会に入っているのは理事連合会とPTAの役員さん達なので、どんな話をされているのかわからなくて、新聞で要望書を出しましたという記事を見て知りました。見てわかる様に南小倉小学校もどんどん減っていますし、マンションは建たないし建てられない。本当にこれ以上人口が増える事は少ないと思います。西小倉小学校がちょっと増えている推計ですが、令和7年の方に関して、今ちょうど住宅を分譲している所が西小倉校区にあります。ここにまた若い世帯が増えるように見えますし、期待します。私が一番感じるのは、地図で見たら反対で近鉄の西側などの西小倉自治連合会という事で一組でコミュニティが出来ています。北小倉小学校の校区と南小倉小学校、西小倉小学校の校区の境目というのが本当にギザギザでして、一筋ちょっと一軒程の隣は北だとかこっちは南だとか、ここでしたら西小倉の方が近いのに北小倉に入るのかなど、校区を決める時はどんな風にして決めているのかわかりませんが、それはもう子どもをお持ちの保護者の方はおかしいですねと言ったりしています。住んでいてだんだん子どもが減っていき、学年1クラスというのは厳しいなと思ひまして、一緒になったら良いのにねとPTAの方から話は出ています。

(会長)

一応3つの柱で伺いたいという趣旨ですから、ご意見伺えればと思います。こういう事を考えていけないのではないかというのを1つの叩き台として、意見を与えて頂けるのではないかなと思ひ、先程のアンケートにも関係しますが、分離型と一体型との関係、校長先生として子どもへの教育、説明、その他連携というようなあたりで、何かレクチャーを頂くと一体型の一貫教育を理解していくのに必要でないか思ひます。

(委員)

グラウンドがどうかという設備面は少し置いておきまして、概要的なことから…。黄檗学園は開校8年目になります。2007年スタートです。相当かなり前から始まっておりまして、2012年から小中一貫教育が始まり本校がスタートしている訳ですが、先程も言いましたように中1ギャップを解消という言葉ではなく、中1ギャップの幅を狭めてステップを低くする、そういう狙いで自然な形で子どもの年齢集団を形成していく、それがここ8年間の公務でした。中学校の厳しい部分を小学校の5・6年の間で体験するように、先程のテストではないけれど、テストや勉強がしんどいと思う児童たちが大慌てしないで、5・6年からわかってくれるとある意味、中学校でやっている生き方教育につながります。まさに色々な将来の事や正解の無い答えを見つけるという議題に取り組んでいます。そういった内容についても直には接しないけれど、掲示物や中学生の会話であるとか、色々な外部の講師も入れており、また人も大勢来る(見学)だとか…。施設面にも繋がるのですが、建物の中にある吹き抜けの大きなホールは全学年が通過するところですので、2階から見るという事もできますし、何をしているか雰囲気でもわかり、何をしているのかというものを感じて、自然な形で空気として伝わっていく、それは非常に効果的だと思います。9年間の育ちを一貫して見ていくのは本当に施設一体型というのはありがたい。中学の教師も中学生にとっても、場合によって低学年時の担任がいると声掛けをして貰えるとか、何か問題があっても小学校高学年の担任が声を掛けてくれたり、逆に小学校の5年、6年でちょっと気に食わなくて暴れてみたり、飛び出したりしますけれど、たまに中学校の先生に助けて貰い子どもたちに声を掛けて貰うなど、違った視点から子どもに話しかける取組が随所に見られます。これが良い点です。悪い点はありません。ギャップが少ない分小学校から人間関係が築けていない、解消しないままで人間関係が繋がっていかないと思われますが、それに対しては、本校は幸か不幸か人数が多いのです。今は1124人です。非常に大きな学校ですので、そういう意味では小学生が中学校に上がる時にクラス替えをしますのでかなり解消していくと思ひます。

(委員)

小規模の学校は、小さい小中一貫が沢山あるイメージで、1クラスずつ上がっていく感じですが、本校については分散校もありますが、見ている限りではそれほど大きなトラブルは無いし、子どもの成

長の中で解消しているなど感じます。それが今の実態です。

(会長)

先程の事務局からの説明でも、仮にこれが実現したら大体黄檗学園と同じ規模になるのではないかという話もありましたので、イメージが持ちやすいと思いますが、2回目にしてご意見を頂戴頂ければと思います。

(委員)

黄檗学園の保護者です。良いと思ったのは、小学1年生で入った子どもの面倒を9年生が見てくれる、その逆で9年生の視点から1年生を見れる。この2年ほど一緒にさせて頂き、この学校で一番良かったと思うのが9年生の卒業式。9年生が卒業していく時に普通なら中学校1・2年生が送り出してくれるが、9年間を過ごしているので、小学1年生までが皆で花道を作って9年生を送り出す。9年生を送り出してくれる小学1年生と握手をしたり、ハイタッチしながら出ていく。そういう光景を見ていると可愛らしい。9年生はお兄さん、お姉さんのような気持ちで卒業していく。

(会長)

なるほど8年の差があるのですね。漠然としているかもしれませんが、こういう教育が出来るのではないかと、良い取組はないかとありませんか。

(委員)

何度か機会があり、黄檗学園に寄せて頂きまして先のお話を聞いていますと、笠取小学校でもそういう光景が目に見えてきます。というのは小学1年生で入学してくると本当に小さい子です。それでも6年生で卒業する時には立派になって巣立っていきます。それが今のお話で9年生が1年生の子に触れ合うという事を想像すると、率直に良いなと思います。笠取小学校の場合は、卒業して町の中学校へ皆それぞれの地域に帰りますが、卒業式にはまた帰ってきてくれます。卒業式に来れる子は、時間が無い中でも見送ってくれるのです。ただただイメージが重なって、大変良い光景だなと思い、6年生で味わうのも9年生で味わうのもいいなと率直に思ったりしました。

(会長)

中学生で考えたら、中1の子が恐らくお兄さん、お姉さんでもやはり3倍違いますね。

(委員)

中学校から突然来ましたらびっくりしますよ。子どもの成長に。

(委員)

黄檗学園が小中一貫校になった時、全然地元に住かなかったのも、よく経緯についてわからないのですが、小中一貫校の教育がどうこう、西小倉地域に一体型の学校を作るとあつては、単なる統廃合で収まるような話だと、親としては不安になると言いますか、後々小中一貫校にしたからには単なる一緒にしたではなく、一緒にしたから良かったというプラスの何かが無いと保護者は納得しないと思います。アンケートの結果で一体型が分離型に比べて傾向が良い結果として見えていますが、事務局の説明を聞きだんだん子どもの数が少なくなっていくから統合だという話に持って行かれると、教育自体を縮小する印象を受けてしまう。だから、小中一貫をすとなれば、要望にある施設を新しくするというのが恐らくそこだと思います。単なる統廃合ではなく新規というか、新しい箱を創って、そこからまたプラスの何かを生み出していこうという気持ちで是非するのであれば、十分に保護者の方に説明をして欲しい。且つ、この地域の小学校が1つになり、小・中学校が一体になって地域を中心とした学校を盛り上げていく環境創りをお願いしたい。

(会長)

数字だけでない何かを。

(委員)

我々は一体型ではない分離型で宇治中学校ブロックですが、アンケートの結果を見る限り、不安の円グラフの割合を見ても8年進めてくる中では、分離型でも一体型でも不安が軽減することは難しいなと感じています。今、小中一貫で何を、どこを目指しているかということ、学力をつけることが示されています。分離型と一体型で、学力をどうしようと分離型から見ると、一体型は職員も小中が同じ職員室に居て、色んなことが出来るのかなというイメージがありまして、実際どういう感じになっているのかまた教えて頂きたい。

(会長)

施設面にも繋がるかもしれませんが、次は施設の話、学習面の話をしましょう。

(委員)

正直辛い所です。義務教育の枠組みは小学校、中学校と決まっています。それから小学校のカリキュラム、中学校のカリキュラムが決まった中で、その通りにやっていますので、一緒にしているから何か特別な事が枠を外して出来るかというところではない。決められた事はどの学校もしなければいけない。ですからその手法は少しくらいなら工夫は出来ますが、実際のカリキュラム編成上は他の分離型としている中身は変わらないです。小中一貫だから検証し合って、小学校のカリキュラム、中学校のカリキュラムの連続性を持たすとか、例えば、問題集1つにしても中学校と小学校で確認して統一性を持たすとか、基礎学力をどうつけていくのか、それを1人のコーディネーター、1人のラーニングコーディネーターが、中心になって整理し直しています。小中一貫の黄檗学園の学力は、施設一体型にしたから成績がグンと飛躍したと言われると、正直見えないです。1つ大きく言える事は英語です。英語は3年前まで3年間、国の指定をとりまして全学年1年から9年まで取り組みました。それは、カリキュラムを整理し直し新たに作っていく中で、今は英語がかなりのレベルになっておりますし、教師も子どもたちも自信を持って英語の授業に望んでいるという状況です。中学校というのは英語や数学のそういったカリキュラムをどう組み立てるかによって、伸びていきます。本校のラーニングコーディネーターを中心に、数年先には笑い話になるような学力は、すぐには目に見えない様に上がらないものですが、上がったそれは持続出来ると思います。持続できるような学力の上昇が持続できるよう求めています。国語の力であったり、システムのものを再構築したり、またホームページでもアップしていますが、そういった意味で学校としてこうしていこうという事が取組やすいです。施設一体型の職員会議は、全員70人程で一旦は始めますが、後は分かれて効率よくします。一応効率性を考えた中で、この学校でできる事があるので、分離型では学習効率を上げて成績を伸ばすのは出来ないけれど、施設一体型の特徴としては非常に動きがとりやすいのです。

(委員)

無いとは言いづらいです。それぐらいのスパンで我々は考えています。

(会長)

学力の話も大事ですが、それ以外に生活面というか不登校やいじめなどについて、良くも悪くも雰囲気をしっかりつかんでおられますか。

(委員)

今の規定では、本人がいじめられたとか嫌な思いをしたという事で、いじめ1というカウントをします。そういった意味ではゼロではございません。時間をかけてすべて解消方向には動いています。ケンカやいじめは施設一体型だから少ないとかそういうのではなく、1つのステーションと言っています。ナースステーションも同じで、それぞれホールごとに1つのステーションがあって、そこに教師がずっといます。職員室に帰らないで、休み時間も教室にあります。特に小・中の子どもたちが交わることがあるので、じゃれ合っているのです。去年、本を書いている文芸大の先生が視察に来てくれまして、校門から子どもたちが教師ステーションの前で安心してじゃれ合う小学生と中学生の姿は昭和の時代の地域社会の子どもそのものであった。そういう光景がやはり見れるというのは、小学校と中学校がケンカしては見られません。開校7年目、8年目ですから1年目から6年目までを預かってこられた校長の皆さんの力だと思います。それぞれ学年の中ではケンカはもちろんありますが、小学校と中学校の枠を超えてというのはほぼ皆無ですからある意味不思議です。トラブルがあってもおかしくないですよ。

(会長)

卒業式の話をしてくださいましたが、何か気づかれる事はありますか。

(委員)

一貫校なので人間関係が継続していくのは良い事もマイナス面もあると思います。いじめとかを抜きにしても、なかなか人間関係に馴染めずにいる中学生が、色んな小学校の子どもたちが入ってきて1つきっかけになることがあると思います。人の入れ替わりにきっかけが無いのは、ある意味6年間で若干馴染みにくかった子にとってはそのまま3年間続くということがあり得るかと思う。それは、

分離型で小学校に馴染めず、中学校でも馴染めずというのはあると思うし、割合がどうかはわかりませんが完全に一体型の中の間人間関係というのを子どもにとってどうなのかはわかりません。親の立場で見ても自分の子が馴染めなかったら、さあどうしようかと心配します。

(会長)

小学生が中学校に上がってきて、こんな風になったら新鮮と感じられますか。

(委員)

それは一貫校という意味なのか分離型なのか。

(会長)

分離型で。

(委員)

小学校から中学校へ上がると俗にいう文化も違いますし、当然子どもたちは凄い刺激を受けて入ってきます。一貫校と違って、それこそ入学したては学校の派閥みたいなのがあります。そういう中でトラブルが起きます。それが大体1学期いっぱい続きます。その中で淘汰されながらどのように友達付き合いしようかとマイナスがプラスになる事はありますが、だからといって一貫校がその要素が無いかと言ったらそうとは思いません。実際そういうトラブルの部分で勉強しなくても、違う所で異学年と交流する、そういう意味の良さが一貫校にはあるので、お互いどっちにも押し量れないと思います。

(会長)

やはり分離型とはこの点がちょっと違うのではないかな。

(委員)

一長一短ですね。よくでる話ですが、すべてが良いとは言わない事ですね。色んな事で質問を受けますが、それに反対する人いますが、プラスマイナスで考えたらプラスだと考えます。小中一貫の6年生は小学校という区切りの無い9年間の義務教育です。一定枠の中でやっている学校である以上、やはり良さがあるのだから、その一部でも無くすわけにはいかず、それはそこを突かれると仕方ない。例えば、9年生が1年生を面倒見るという機会を作っています。という事は、6年生が1年生を見る機会をとってしまう訳ですから、他の小学校でしたら1年生を連れて学校見学をするのは6年生で、なぜ6年生でしないのかという声の一部上がるかもしれません。その場合、違う場面で活躍してもらいます。住み分けしていかないとダメですね。働き方改革にしても、教師の方も小学校だけを考えているわけではなく、中学校の教師も声を掛けたり、その逆もあります。教師としての働き方は、プラスαの部分もあると思いますが、教師として子どもが成長していく事を考えることは非常に大切で、元々26・7年間中学校の教師をしていて、小学校に10年近くいます。今、黄檗学園に来て動向を見させて頂いているのですが、そういう機会を一般の先生方にもしていただき、先生方には何かしても見て見ぬふりはしないで構ってあげてください、そういう話をよくするのですが、先生方はそういう意味で仕事は増えるけれど、先生の成長にも繋がるのではないかと思います、そこは今難しくて昔でしたら突っ走るのですが、なかなか働き方もありますので、小中一緒にする取組は小中の担当委員が残って企画・立案検討しますが。一般の小学校よりも、もしかしたら時間がかかるかもしれません。それは今後どうしていくか検討していかないとならないと思います。整理しないと教師は働きにくい学校になってしまいます。小中一貫は働きやすいなどはないかと…難しい所です。

(委員)

数年前までは、全て一緒にしていたが今年から半分半分で分けました。より専門的にしていこうと考えまして、全体とする研修と中学校・小学校を別々にする研修をしています。

(会長)

2本立てみたいになっている。

(委員)

学校と地域の関係において、学区は一体型になりましたが、小中一貫の所に引っ越して来ましたと言う人がいるのか、あるいは出ていった人がいるのか、もう1つは全く別の事情で宇治黄檗学園の学区内に転校生として入ってきたことで子どもや親が不安になっていないか。

(委員)

アンケートをとってはいるけれど、開校当初の人数より減っていないと思います。本校は大きなマンションが建つ様な場所ではないので、むしろ生徒数は減っているけれど、転入生は入ってもらっていると聞いてはおります。入ってから期待どおりかはわかりませんが。

(委員)

知っている限りですと、開校当初はかなり転入者が多かったと聞いています。それと国立や私立への進学が一定ありましたが、開校当初は少なかったと聞いています。

(会長)

小学校から中学校に上がる時期に、抜けないでそのまま行こうと。

(委員)

少し会合に関わっていましたが、住宅開発業者が学校が建つ前からここには新しい学校が建ちますよと住宅開発を進めたり、地域に人数が増えたという事実はあるとは思いますが。そもそも予測していた時よりも、全然学校の人数が増えていないのも事実ですので、やはりそれなりに人気はあるのかなというのは思います。

(委員)

2番目の小中一貫校について話の場を設けると、西小倉地域の方はかなりおられるのではないかと考えられます。話は簡潔にという事ですが。

(会長)

新しい部屋や水回りなど、色んなメンテがあったり、新しいアイデアとかも生まれるかもしれない。施設の面で何かありますか。

(委員)

第2の新設の学校プランとなれば、これはやはり大きなプランになるでしょうね。1200名弱の学校としてどんどんと募っていきます。小学校専用のグラウンドがあればとか正直な所、広いグラウンドにして欲しいです。

(委員)

中学校のクラブはありますね、野球とか。クラブを小学生と同じグラウンドでしているのですか。保護者の方は、西小倉中の同じグラウンドで小学生と中学生が休憩したり休み時間遊んでいたら危ないのではないのか、それと放課後のクラブですね。

(委員)

放課後のクラブの時間帯には、小学生は帰っている時間帯でございます。

(委員)

小学生が帰ったら、学校には遊びに来れない。

(委員)

地域の声として上がっています。事実です。今は難しいけれど、本当は2つグラウンドがいるなあとなってきます。あるのだけれど1つは育成学級で使いますので、やはり厳しいですね。そこで今年少しでも解消しようとして、今のクラブの扱いが大分変わってきて、土日ほどっかか休みましょう、週1回休みましょうとなっております。会議等で使用しない時はネットを通じて学校開放のグラウンド解放の日を作っております。それについては少し好評価で、以前に比べれば今月は何日、今月は何時とか開くのがわかると、広いグラウンドが使えます。それについては少しですが、広いグラウンドがあって、休み時間は少し時間をずらしていますのでそこは良いのですが、合致する時間とか曜日があるので、そういう時は教師の方も外に出まして、ラインを作って住み分けをしています。中間休みは中学生は出ませんので昼休みですね。昼休みの時間帯のケガが一番怖いです。ですから校長も含め10名前後はグラウンドに出ています。普通の学校、中学ではありえないです。でもコーンを立てたり、色んな事を工夫しながら住み分けはしています。アンケートの中で窮屈な思いをさせているのではないのかとか、反対する人はそういう意見が出てきます。全てが良いというのは無いので、そういう意味では大きいグラウンドが欲しいなと思いますね。これについても実は小倉の方が視察に来た時も、大きいグラウンドがあった方が良くよと一言いしました。反映されるかも。

(委員)

それは子どもの安全面を第一に考えるとグラウンドは大きいのが一番ですね。

(委員)

小学生は帰っても行く所が無いのです。

(委員)

今は公園ではバットもボールも使えません。

(委員)

小学校には来ていますよね。

(委員)

そうですね。一度帰ってから。

(委員)

菟道第二小学校は駄目だとは言わない。時間は決まっております。日が落ちるのが早い時間は4時30分までに、夏とか日が長い場合は5時までとしています。そんなに沢山遊びに来る状況はありません。

(委員)

援護射撃がきたので言いますと、週1回なり2回なりフリーの日を作っていますが、一番遠い所で2.1キロあります。狭い中の小学校で育ったのですが、学校に来るのは危険かもしれません。近くの公園で遊んでいる方が、そういう声を上げてくるとその人の意見が大きくなってしまい、実際は多くて7・8人がグラウンドで遊んでいる位でしょう。でもその子たちの為にも本当は開けてあげたいなと思っています。

(会長)

西小倉について言えば、使える可能性はありますよね。使えるように行きやすい所に出来るかもしれない。

(委員)

放課後公園でボールとか使って遊んでほしい。

(会長)

施設の話にも出ていましたが、典型という所に向けて良いのであれば、一体型にする事でより繋がりが子どもを通じて世界が何となくイメージできるのですが、保護者の方あるいは地域社会との繋がりが方というのが、単純に言ったら強まるのか、それともずっと近くなった学校が遠くなる可能性もあるのでは。

(委員)

本校は、小中合わせて昔からの地域でございまして非常に強い絆ですね。育友会の方もPTAの方も、全体で1つの学園、育友会を作っていますので、より強固な育友会ではないかと思えます。

(委員)

9年間小中合わせて1つの育友会にしていますので、1年生の保護者から9年生の保護者まで一緒にいるというのはなかなか珍しい。負担も分散されますし、それに加えて1年生の保護者が9年生の保護者が一緒になる機会はまず無いですね。年も離れていて、何かの活動で一緒になるとそこでは知り合いの輪が広がっていくというのはあります。

(会長)

保護者の方を結びつける力を持っているのではないかという考えですね。

(委員)

地域行事は、それぞれが中学校の子も含めて連れてくる事が出来ますので、勿論クリーン運動の活動も部活動が加わってくれたりします。小学校だけでやっている地域行事にも中学生を含めると…

(会長)

吸引力がある。

(委員)

ありますね。元々昔の地域というのは性質上あるのでしょうか。

(委員)

卒業しても、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊びに来て、町に遊びに来るとかいう話をします。本当に少人数なので、1年生2人とか2年生は3人とかで全部が一体で縦の社会になっていますので、6年生

のお兄ちゃんが1年生をよく面倒見るのです。6年生が卒業する時に、次の5年生はまだ送る立場なのに、6年生になった時には始業式でもお兄ちゃんの顔をしています。それが歴然とわかる感じで新年度頑張っていかないと駄目だという引き継ぎが子どもの世界ではされています。規模は違いますが、先生が言われたように、学校のカラーになって効果的になっているのではないかと思います。

(会長)

要望が出るという事そのものが、地域の協力の証でもあるでしょうから。

(委員)

我々の地域は小さいですが、西小倉地域が一体になるというのは、なかなか頑張っておられると思います。

(会長)

お膝元ですが、いかがですか。今回、地域の問題として。

(委員)

青少年育成協議会は小学校区にあるのですが、それはどうなるのか。

(会長)

組織ですね。

(委員)

それがちょっと変だなと思うのです。

(会長)

中学校進学の際に、割と私立の小学校に行かれるのか。

(委員)

この数字よりも少ないような気がするのです。推計も。

(会長)

実際に入ってくる子どもがね。学年のクラス数というのは、大きな条件ですか。

(委員)

菟道第二小学校は、2年生だけが4学級、他は3学級です。学年の繋がりもそうですが、縦割りの活動をしていまして、1年生から6年生が3つの集団で日々の掃除をしたり、出来るだけ同年齢ではない色々な集団で活動できるような班を作っています。

(会長)

これまでの経験では、ここ1月にそこまでのプラスとかは無いですね。

(委員)

北宇治中学校の令和7年度の461人とは、西小倉地域が統括されたという体の人数ですか。北宇治中がもの凄く少なくなるのかなと思ったのですが。

(事務局)

今現在はこういう推計となっております。もし学校統廃合となった場合、当然ながら北宇治中学校にはここから数人が来ていますので減ります。

(会長)

30人位が減っていくと考えていいですか。

(事務局)

そうですね。そこは30人位なので3学年で90人位です。

(会長)

3学年で90人。

(事務局)

ですから161が300半ば位。

(会長)

300半ば位。

(事務局)

西小倉中学校は、340位という形で同じような規模の中学校になる。

(会長)

北小倉、西小倉と北宇治。

(事務局)

そんな感じの2校。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

小中一貫とは1年生から9年生までが一緒にいるという事で、9年生が中学3年生として高校受験を控えているのですが、同じ建屋の中に全然意識をしていない小学1年生がいるという所で、高校受験でピリピリとしている生徒に対して、凄く小さくて元気な1年生がワーっという環境というのは良いのか悪いのか。1つは子どもにとって良いかどうかというのと、もう1つは保護者同士。やはり中学3年の子どもを抱える保護者と小学校1年生を抱える子どものいる保護者は、やはり学校生活について意識が違う所があり、同じ育友会で活動していても保護者同士の意識には違いがあります。9年生の親を、1年生の親が見るという事は良い面もある一方で、マイナス面も保護者・子ども両方にあるのではないかと思います。学校の休み時間を分けるとか、どのような工夫がされているのか。

(委員)

建物は、廊下で繋がっていてウイングの形になっています。前期棟は、1～4年生が使用しており、下駄箱も前期棟に置いています。1200人一度に下駄箱は使いません。中・後期(5、6、中1、中2、中3)は別の棟にあります。ですから北ウイングと南ウイングみたいなもので、小学生が中学生の所に行く事はほぼ無いです。あと試験期間中は啓発の看板を出します。静かに歩いてくださいとか、そういうような事で、言い方によれば窮屈な思いをさせているのかもしれないかもしれませんか、それを小さな社会として呼んでいて、地域社会におけるお兄ちゃん、お姉ちゃんを応援しようねと言っています。前期棟の方は、わいわいしています。どこの小学校にも劣らない元気です。もともと本件については、6年と中1は同じ所におりますので、そこに試験の時は、やはり静かにしようと上手く考えて、同じ棟であっても中1の部分は少し離れて作られています。ステーションも1つで、そこに先生が座っています。開校8年も経ちますと、試験の時はこうするものだ子どもたちが騒がしくならないようにしてくれそうです。

(会長)

その所、親御さんはどうでしょう。

(委員)

親の立場で、受験生の親が小学生はどうと言うのは聞いた事ありません。本部を18年やっていますが、小学生の親の育児相談を中学3年生の親がしているように「私の時はこうでした」と大先輩が1年生の保護者にしてくれます。逆に中3の保護者に今受験を控えている方が何人かおられますが、その方のストレス発散の場になっていて、家ではうるさく出来ないとか、学校の地域活動の方と一緒にわいわいしているという上手くバランスが取れています。

(会長)

色々意見頂戴しましたが、これだけは言いたいとか、別の議題に対して何かありましたらご意見ください。長い経験の中でこうあるべきでは?など。

(委員)

宇治黄檗学園は宇治小学校が母体で、1つの地域がそのまま1つの学校になっている特性があります。現在、検討されている西小倉地域の方は、それこそ4つの学校で地域組織が様々ある中、それらをまとめながら学校を作る状況となるので、先に言われたように西小倉ならではの学校とは何だろう、地域にとって大事な学校とは何だろうと考えていくなかで、地域の連携は進んでいくのかなと思います。だから黄檗とは違う地域状況で一貫校になるので、そこはそれこそ地域の方と連携を取っていかれる事で不安は消えるのかなと思います。あくまでも立ち上げの状況が違うので、一貫校を考えていく上でやはり参考になる所と参考にならない所があると思います。

(会長)

同じ一体型といっても、例えばグラウンドが大分違うのではないかと指摘がありました。他に何かありますか。

(委員)

先日、仕事柄うろうろしていますので、相乗効果だなと思うことがありました。まだ幼稚園の子どもさんがおられる方でしたが、学校は黄檗学園の範囲（校区）だったので良かったなどと言っておられました。やはり地域から出て行かれるより、そういう面（地域の学校）で良いのかなという気がしました。

(会長)

きっかけになるのではないかと……。まとめることはできませんが、色んな意見を頂戴したかったので、事務局の方で集約して頂き、本日の協議はこれで以上とします。

(事務局)

事務連絡事項の説明

本日の議論につきましては、要約という形【会議録】で作成します。また、内容を整理した上で各委員のほうに確認していただきますのでよろしくお願いします。

3 閉会

伊賀教育部長 閉会挨拶